

国際業務の 窓辺から

CLAIR 経験者からの
メッセージ



海外事務所で得た一生の財産

広島市市民局国際平和推進部国際交流課 主事 建道 文子

2年半前、海外事務所に赴任した矢先に起きたトラブルは、船便で届くはずの引越荷物の紛失でした。残された荷物はスーツケースとバッグの4つだけ。住む家も決まっておらず、衣類は4月なのに冬物だけという状態からのスタートでした。

次に驚いたことがニューヨークの家賃・物価の高さ。着席形式のレストランでのランチは約20ドル（日本円で約2,200円）、チップも18～20%かかります。人気のラーメンは一杯1,500～2,000円、赴任当初は日本食を口にするのもほぼ皆無でした。海外勤務を心待ちにしていた私も、異国の地での生活の立ち上げは容易でなく、職場での電話応対や意思疎通は日々緊張と冷や汗の連続でした。しかし、失敗を恐れず、違いも楽しもう！と開き直ってから、余裕が生まれ、生活がガラリと変わりました。

アメリカは「人種のるつぼ」と言われるように、世界各地から人々が集まる多様性に富んだ国です。ニューヨーク市内には中華街、イタリア人街、ロシア人街など各民族の集住地区が存在し、店の看板や服装、飛び交う言語はまるで現地そのもの。2年目に住んでいたクイーンズ区は特に移民が多い地区で、通勤で利用する地下鉄内の広告が多言語化され、乗客が話す言葉もスペイン語、中国語、アラビア語と実に多様でした。

クレアニューヨーク事務所では、経済活動や姉妹都市交流などを担当しました。「ジャパン・ウィーク」などの交流イベントでは、JNTOやJETROの日系政府機関と協力して自治体の海外展開支援を行い、官民の垣根を超えて幅広い人脈を築くことができました。全米各地に出張する機会があり、L.A.やシカゴといった観光都市から人口2千人の小さな田舎町まで、アメリカの各都市を自分の足で見て回る機会にも恵まれました。他にも、大学で自治体を紹介するプレゼンやJET応募者への面接

など日本ではできない数多くの経験をさせていただきました。その中でも特に印象に残っているのが、着任早々、ニューヨーク国連本部で開催される核不拡散条約(NPT)再検討会議にアテンドしたことです。世界各国の軍縮・平和構築分野の専門家が集まる特別な場所で、核兵器や原子力に対する世界の反応や議論をリアルタイムに聞くことができたのも、世界各地に拠点を置くクリアだからこそできたことだと思います。

海外駐在に胸躍らせていた私も、言語の壁や日米の仕事の進め方の違いに戸惑い、思い描いていた理想と現実の壁にぶつかる場面が幾度もありました。また、ニューヨークは華やかな摩天楼や五番街から一步路地に入れば、ホームレスや物乞いの姿など光と影を持ち合わせている街です。しかし、一旦生活に溶け込んでしまえば、これほど自由と個性を尊重し、言語・宗教・文化の垣根を越えて人々が共存している街はないと思います。日米両国の視点から「自治体の国際化とは何か」について理解を深め非常に濃い2年間でした。今後はこの経験を生かして、地域の国際化に少しでも貢献できよう日々邁進したいと思っています。



クレアレポート執筆のための学校訪問

プロフィール・ほか

- 現職：広島市市民局国際平和推進部国際交流課 主事
- 業務内容：姉妹都市交流、JETの受け入れ 等
- クレア時代の所属：
 - 2014年4月～2015年3月 多文化共生課 主事
 - 2015年4月～2017年3月 クレアニューヨーク事務所 所長補佐